

竹の台地域委員会 「高齢」にかかわる勉強会 めざせ！ Happy100 年人生
第 15 回 「認知症になっても安心して暮らしていけるまちへ」 要旨

1 日 時：令和元年 8 月 17 日（土）13：30～15：00

2 場 所：たけのパーク フリースペース

3 参加者：22 名

4 講 師：神戸市保健福祉局 介護保険課 土井池 認知症対策係長

5 主な内容

(1) 全国初の条例（神戸モデル）の施行（昨年 10 月～ 第 5 回要旨参照）

- ・神戸市では 65 歳以上の高齢者 43 万人中、12 万人が認知症又は軽度認知障害（MCI）と推計されている。
- ・国の統計では、65 歳～74 歳の 2.9%、75 歳～84 歳の 13.6%、85 歳～94 歳の 41.4%、95 歳以上の 79.5%と、加齢とともに、認知症の人が急増する。
- ・この条例は、平成 28 年の G7 神戸宣言を受け、認知症の人やその家族を社会で支えていくまちづくりを推進するために作られたもので、政令指定都市では初めてである。
- ・条例の基本理念は、①予防及び早期介入、②医療・介護（早期診断体制の確立）、③自己救済・予防（救済制度や免許返納の推進）、④地域の力を豊かにすることである。

(2) 新たな診断助成制度

- ・第一段階として、地域の医療機関（約 400 箇所、竹の台では岡村医院と浅野医院）における簡易検査がある。ビタミン B12 欠乏症や甲状腺機能の低下など、認知症と似た症状の出る病気もあり、これらは早期発見により、直すことができる。
- ・早めに受診することで、①本人の意思を尊重でき、②進行の抑制に努められる。
- ・65 歳以上の人は年に 1 回、電話で神戸市（コールセンター）に事前に申し込めば、無料の受診券が送られてくるので、近所の医療機関等に予約する。今年度は、初めての年なので、申し込まなくても誕生日頃に送られてくる。
- ・検査は、①「改訂長谷川式簡易知能評価スケール」を用いた日時・場所・数値計算などでの認知機能のチェック、②問診票での生活への支障のチェック、③医師会作成の問診票での鬱や徘徊傾向等のチェックにより客観的に行う。
- ・認知症などの疑いがあると判定されると、当該医療機関からの紹介状により、第二段階の精密検査（市内 63 か所の指定病院。竹の台近辺では西神戸医療センター）に進む。
- ・精密検査では、MRI、CT、血液検査などにより、病名（アルツハイマー症など）又は軽度認知障害（MCI）、若しくは別の原因を診断する。
- ・医療保険がきくが、負担分は申請により、後日、全額助成される。手続は病院ででき、このときに、後述の事故救済制度への申し込みも行う。

(3) 事故救済制度

- ・認知症で徘徊していた老人が電車に轢かれて亡くなった事故で、JR が家族に損害賠償請求（720 万円）をしていた件で、平成 28 年 3 月、最高裁は「この場合は、家族に損害賠償責任はない」という判決を出した。
- ・この判決は、裏返せば「損害賠償責任を免れない場合もある」と言っている。また、損

害を被ったのが JR でなく、個人であっても、全く補償されないという事態が想定される。

- ・これらを受け、条例では、精密検査で認知症と診断され、事故救済制度の申し込みがあった人を対象に保険に加入（保険料は市が負担）し、本人や家族が損害賠償請求された場合、保険金から支払うという制度をつくったところ。
- ・さらに、認知症の人が起こした事故で被害を受けた人に「見舞金」を支払うことも制度化した（この部分が全国初）。
- ・このほか、一部有料だが、GPS による居場所探しや駆けつけサービスを利用することもできるようになった。

（4）相談窓口

- ・認知症に関する総合電話相談を受ける「こうべオレンジダイヤル（262-1717）、土日祝日などを除く 9：00～17：00」を開設しているので、あんしんすこやかセンターに連絡できない場合などに利用できる。
- ・事故を起こしたときは、24 時間 365 日対応の「認知症事故救済コールセンター（0120-259315【じ(2)こ(5)きゅう(9)さ(3)い(1)こ(5)うべ】）」へ連絡する。

6 主な質疑

- ・財源として、3 か年で年間 400 円／人の市税負担増とのことだが、3 年後はどうなるのか？
 - 3 年後に見直す予定。制度がなくなることはないだろうが、国に制度化を求めており、国が制度化すれば、そちらに移行するので、市税の負担は少なくなる可能性がある（救済制度は他の例があるが、見舞金制度は例がなく無理かも）。
- ・既に認知症の診断を受けている人はどうなるのか？
 - 診断書の提出など、所定の手続をすれば制度の対象となる。
- ・GPS 発信機を持たせることが難しい場合が多い。靴につけるとか、やり方を見直した方がよい。
 - IT が日々進化しているので、3 年後の見直し時に検討したい。

以上